平成 27 年度第 2 回双葉町総合教育会議　会議録

■　日　時　：　平成２７年１２月１５日（火）午後１時１５分～３時３０分

■　場　所　：　双葉町いわき事務所大会議室

■　出席者　：　双葉町長　伊澤　史朗
教育委員長　岡村　隆夫
教育委員長職務代理者　井上　了子
教育委員　大久保敏己
教育委員　山本眞理子
教育委員　谷津田尊之
教育長　半谷　　淳

（敬称略）

１．開　会

【今泉教育総務課長】
　それでは皆さん改めましてこんにちは。お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。ご案内しました１時１５分より若干早いですが、只今から平成２７年度第２回目の双葉町総合教育会議を開催いたします。まず始めに双葉町長、伊澤史朗からご挨拶をいだきます。

２．町長あいさつ

【伊澤町長】
　皆さんこんにちは。
【教育委員全員】
　こんにちは。
【伊澤町長】
　皆様にはご多忙のところ第２回双葉町総合教育会議にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。岡村委員長を始め委員の皆様方には、教育行政の進展にご尽力頂いておりますことに改めて感謝を申し上げます。さてこの会議は改正されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づいて５月１８日に第１回会議を開催し、発足致しました。第１回会議におきましてはこの会議の趣旨等ご説明申し上げましたが、今回大綱に代わる双葉町教育振興基本計画（案）をご提案致しますのでご審議をお願いしたいと思います。本日は宜しくお願い致します。

３．議　題

【今泉教育総務課長】
　続きまして次第３番、議題に入りたいと思います。会議の座長につきましては伊澤町長にお願いしたいと思います。

（１）大綱（双葉町教育振興基本計画）（案）について

【伊澤町長】
　それでは暫時、議長を務めさせていただきたいと思います。議題の（１）の大綱、双葉町教育振興計画（案）につきまして阿部指導主事から双葉町教育振興基本計画（案）に基づく説明を行って頂きます、宜しくお願い致します。
【阿部指導主事】
　はい、それではご説明を申し上げます。改正された地方教育行政の組織及び運営に関する法律

では町長は町の地域の実情に応じまして町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策、大綱を定めるものとされており、策定の際には総合教育会議において協議するものと定められております。町において教育振興基本計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針の部分が大綱に該当すると考えられる事から、当該計画を持って大綱に代える事と判断した場合には、新たな大綱を策定する必要が無いこととされております。

双葉町には平成２１年４月に策定しました教育振興基本計画がありますが、避難している双葉町の状況において、そのまま継続して活用する事はできないことから、あくまでも基盤、土台として現況を踏まえ今後の見通しと思いや願い、期待を込めた案を作成いたしました。なお、作成するにあたりよりコンパクトに、より明確に、そして活用しやすさを考慮しました。

まずはお手元に教育振興基本計画の目次というＡ４、１枚の別紙案を準備しました。こちらをご覧下さい。

本計画は第１章から第８章までの構成となっております。第１章では基本方針について、第２章では基本構想について、第３章には基本施策、第４章には基本計画、第５章は具体目標、第６章は学校教育と生涯学習の考え方、第７章は学校教育重点施策、第８章は生涯学習重点施策について記述しております。それではお手元の資料に基づき説明をさせて頂きます。

基本計画では、双葉町を担う求められる人材の育成を目指し、今後５年間で取り組む８つの基本施策と、それに対する具体策を基本計画として設定致しました。

１ページから３ページまでは人材育成についてまとめてあります。国においても人づくりは国づくり、世界で活躍できる人材の育成という事を目標に重点的に進めておりますし、福島県の教育委員会としても、未来を担う心豊かなたくましい人づくりを重点にあげ教育しております。双葉町としましても求められる人材の育成をテーマとして取り組んでいきたいと思っております。

３ページには８つの基本施策を取り上げ、それぞれの施策に対して基本計画の具体策を１６設定いたしました。５ページの（６）は生徒指導の充実という言葉が載っておりますが、心の教育の充実に訂正させて頂きます。

９ページからは学校教育の重点施策を１０示しております。１０ページには授業の充実という事で重点施策をまとめております。特に、分かる授業の展開、読解力の向上、情報活用能力の育成、道徳教育の充実、そして地域人材の活用、特色ある学校運営という内容の施策を作成いたしました。

１１ページには幼稚園、小学校、中学校の学びの連続性を推進する事を重点としてまとめてあります。１２ページには読書活動の推進という事で重点をまとめてあります。１３ページには外国語活用の充実。特に一番下の⑥番、幼小中連携による英語のコミュニケーション能力の向上を目標に進めていければと考えております。

１４ページには幼児教育の充実。１５ページには健康体力の向上。１６ページには心の教育の充実。これまで取り組んできました⑥番の７つの約束と１つの教え、これを基本として心の教育を進めていきたいと思っております。１７ページには特別支援教育の推進について。

１８ページには教職員研修の充実。特にその１８ページの①番については、現職教育の充実、研修会の参加による教職員の資質向上に努めていきたいと思っております。③番については、１２月１２日にもふるさと創造学サミットがありましたが、総合的な学習の時間に「ふるさと創造学」について重点的に取り組んでいきたいと考えております。さらには、これからの時代を担う能動的な学習であるアクティブラーニングに基づく探究的な学びの追求について、重点的に進めていきたいと思っております。また、④少人数教育の推進や幼小中連携の交流授業の推進という事を重点に進めていきたいと思っております。

１９ページをご覧ください。教育環境の改善を取り上げました。特に③番、交通教室、防犯教室、さらには放射線教育について充実させていきたいと考えております。２０ページには生涯学習の重点施策を５つ示しております。２１ページには生涯学習のまちづくりについて。２２ページにつきましては学びの連続性という事で青少年教育から成人教育まで充実させていくための計画を立てております。２３ページには町読書活動の推進。特に②番の読み聞かせによる交流や双葉の昔話を活用していく事業を進めて参りたいと思っております。

２４ページでは文化活動の推進という事で取り組んでいきたいと思っております。最後２５ページ、健康づくり、絆づくりについて取り上げております。簡単ではございますが基本計画についての概要は以上でございます。ご審議の方宜しくお願いしたいと思います。

【伊澤町長】
　ありがとうございました。今、阿部指導主事から双葉町教育振興基本計画（案）について説明を受けました。皆さんの方から質問、ご意見等あれば承ります。
【半谷教育長】
　補足でお話しますが、今回の基本計画が今までつくられていた基本計画の形式的なものは踏襲しましたが、内容については状況がかなり違っているのでそういう違っている部分をかなり言葉、それから方針等を変えました。また、新しい今後をどうするのかという点についても何点か織り込んだつもりです。以上です。
【伊澤町長】
　ありがとうございます。はいどうぞ、井上委員。
【井上委員】
　１ページですが、３行目、上から３行目。震災の臨時休業じゃなくて、休校じゃないでしょうか。
【半谷教育長】
　臨時休校ですね。休業ですとすぐ生徒は戻る。休校という事です。
【伊澤町長】
　３行目の震災後臨時休業を、休校に訂正して頂きたいと思います。
【井上委員】
　あともう１ついいですか。２ページですが、求められる人材の育成と言うと、社会から求められる人材の育成なんですよね。
　もう１つ、あと生涯を通じての言葉が両方、目指す子どもの姿、目指す町民の姿、両方にこの生涯を通じてと書いてあるんですが、このやはり生涯学習とこの子供たちと区別する意味でも子供たちの方の生涯を通じてをカットした方が、この町民の姿の方の生涯を通じての言葉がぐっと生きるような気が私はするんです。以上です。
【半谷教育長】
　今の意見に対して、その求められるのはどこから求められるのか。今、具体的に社会よりという文言を入れたほうがいいのではないかという事ですか井上委員。
【井上委員】
　はい。
【半谷教育長】
　これは社会より求められるというのと、今の時代的な要求、そういうものもあるいは今のその国の施策からして求められるという意味もあるので、そういう事からするとそういう意味を含むと解釈をすればこのままでいいのかなと考えます。
【井上委員】
　広い意味でね。
【半谷教育長】
　もう１点その生涯を通じという文言は今子供たちの学校で学ぶ事がずっと卒業後も、生きている限り学び続けるという考え方が学校教育にかなり浸透しているという事からここにも生涯を通じてという言葉を入れました。
【井上委員】
　両方にですね。
【半谷教育長】
　文科省の施策的な意味もあるので、あるいは生涯学習とは若干違う面もあるので別な用途にすることもいいかなと思います。
【井上委員】
　後で検討してみて下さい。あと２ページの②の生涯学習のところで、誰もが生涯のいつでも必要な時に学び、この「の」を削除してもいいのではないかと思います。
【伊澤町長】
　そうですね。
【半谷教育長】
　生涯いつでもという事ですか。

【井上委員】
「の」をカットした方がいいような気がします。
本当に素晴らしい計画でいい中身だなと思ったんですが、今まで北小学校が良い歯の表彰を受けているんですよね。国から。今も中学生はきちんと歯みがきを行っていますよね。
【半谷教育長】
はい、やっています。歯みがき教育。
【井上委員】
はい、その辺をどこかに組み込んでほしいと思います。
【半谷教育長】
入れるとすれば重点、体力向上ですよね。
【井上委員】
ええ、その辺に。今まで国から表彰されているので、継続してやってほしいと思います。
【半谷教育長】
②か⑤辺りにいれますか。
【井上委員】
その辺に、入れてみてください。指導とか、習慣化とかを付け加えた方が、これまでの継続になるんじゃないかと思います。
【半谷教育長】
はい、大切なことなので、私もいいかなと思います。
【伊澤町長】
はい、ありがとうございました。その他ありませんか。
【井上委員】
短時間の間にこんなに素晴らしい計画を作っていただきまして、ご苦労大変だったと思います。ありがとうございました。
【伊澤町長】
山本委員どうですか。
【山本委員】
１９ページの安全教室の開催という事で、交通教室、防犯教室と入っていて、次にこの放射線教育と入っていますが、これは一緒でいいですか。
【半谷教育長】
安全と言うよりはどうでしょうかね、健康教育でしょうか。
【山本委員】
また放射線とは、ちょっと違うと思います。
【半谷教育長】
安全をどう考えるかと言うか。健康にもちょっと難しいですね。どこに入れたらいいか。
【山本委員】
放射線に対する知識ですからね。
【半谷教育長】
安全、安心。健康。両方入れますか。放射線っていうのはその科学的な知識とかも震災の原因とか色んなところに関わりがあるんですね。その関わりあるところに全部それを入れるか、あるいは１箇所に絞るかですね。どうしましょうか。
【伊澤町長】
どこがいいですか。それとも④ですか、災害に関する④。災害に関する基本的な知識の定着や退路の育成。避難訓練、防災訓練、放射線教育。④でいいですか。
【山本委員】
④がいいですね。結局④は防災教育みたいな形の捉え方でいいんですね。
【半谷教育長】
そうですね。だから両方やってもいいし、どうでしょうか。
【伊澤町長】
どうでしょうか、安全教育から放射線教育を④の災害に関する基本的な知識定着育成に移動してはどうですか。

【岡村委員長】
　　これは、放射線の中身を勉強させるっていう意味だろうと考えます。
【半谷教育長】
　　幅広いです。
【岡村委員長】
　　基本的には、放射能について分からなければならないという事が基本だと思います。
【半谷教育長】
　　災害対策というのは大きな意味、狙いがあります。同じような事故が発生した時のその退路とか動きですね。
【岡村委員長】
　　そういう意味で、放射能は何で危ないのかとか、その事を勉強させる意味でやったら安全教室でいいんじゃないか。防災訓練の中に放射能の防災訓練があるだろうしね。と思って放射線のところに線を引くのであれば、ここで放射線を勉強させるということで、③で私はいいのかなと思います。
【山本委員】
　　教育でなくて、教室ではどうですか。
【岡村委員長】
　　放射線教育ですね。
【半谷教育長】
　　色んな教科で放射線の勉強をさせようと思います。問題は知識、理解ですね。
【山本委員】
　　例えば防災訓練があるんですが、幼稚園、小学校、中学校で段階的に教えた方がいいと思います。
【半谷教育長】
　　それは今のご意見は放射線教育の中に、山本委員がおっしったようなその学年ごとの中身というのは実際にそういう考えで教えるように示されています。訓練ではなくて教育です。③でいいですか。
【伊澤町長】
　　放射線教育につきましては、このまま③の安全教室の開催というところでいかがですか。
【半谷教育長】
　　安全教室ではなく安全教育にしますか。安全教育の推進と、充実ということでいかがですか。安全教育の充実を図れば全て含まれます。
【伊澤町長】
　　では、文言の訂正という事にします。
【半谷教育長】
　　最初の安全教室を、安全教育の充実とすれば全て含まれます。
【伊澤町長】
　　よろしいでしょうか。その他、谷津田委員如何ですか。
【谷津田委員】
　　完璧じゃないでしょうか。
【井上委員】
　　素晴らしいですね。短い時間でまとめるまで大変だったと思います。
【伊澤町長】
　　大久保委員どうですか。
【大久保委員】
　　私が気になったのは、３ページの一番下の幼児教育の充実というところです。基本政策の中に入っている日案の作成と完成評価シートで言うと、このＰＤＣＡまわしますよという話だと思うんですけど、これがもっと後ろの方の具体的なところにブレイクダウンして書いてくるのかなと思ったんですけど、それが何処にも入ってないようですがどうなんですか。
【半谷教育長】
　　ＰＤＣＡの考え方ですね。阿部先生何かありますか。

コメントの追加 [KASIX1]: 聞き取り不能
再生時間　0:25:11

【阿部指導主事】
　　幼児教育は、１４ページにあります。
【大久保委員】
　　実際問題としてこの日案と言うのは、日々の教育計画のことなんですね。
【半谷教育長】
　　はい、町長いいですか。
【伊澤町長】
　　はい、どうぞ。
【半谷教育長】
　　そうです、日々の指導計画です。大久保委員が言われるようにそのＰＤＣＡのサイクルのシステムというのはとても大切な指導する側の態度とか方法です。指導案の改善、充実にありますからね。その後にＰＤＣＡサイクルに基づくというような方法をカッコして入れるという事でどうでしょうか。そうすると３ページの日案の作成がまさにＰＤＣＡという完成評価シートになります。
【伊澤町長】
　　今教育長から１４ページの②のところに追記するという事で提案がありました。それでよろしいですか。
【大久保委員】
　　はい。
【伊澤町長】
　　その他ありますか。
【岡村委員長】
　　ちょっといいですか、３ページ目の③。３行目に「逆に学習意欲を失うニートやフリーターになり易く」とありますが、このニートやフリーターという表現ですけど、もう少し柔らかい表現の方が良いかなと思います。好きでニートやフリーターをやっている人もいないと思います。
【半谷教育長】
　　その通りだと思います。やむを得ずニート、フリーターにならざるを得ないという社会状況も考えなければいけませんので、この言葉をカットして、進学する事だけを目的とした子供は逆に学習意欲を失います。進学する事だけというのは、その事だけでも学習意欲をある程度持たないと進学はできないんですけど、少し検討が必要です。
【伊澤町長】
　　後でこの良い文言を検討してください。
【半谷教育長】
　　そうですね、１つの参考としては、進学する事だけを目的とした子供は真の学びの意味を見いだせず、その後に逆に学習意欲を失い、求められる人材力から遠い存在という事になりますというのだと意味通じませんか。進学する事だけを目的とした子供は真の学びを見いだせず、逆に学習意欲を失い求められる人材力の遠い存在となります。何の為に勉強するんだと考える事が目的ではないかと思います。
【岡村委員長】
　　こういう否定的な言葉はいいんでしょうか。求められる人材を作っていくということでいいのではないですか。
【半谷教育長】
　　なるほど。
【岡村委員長】
　　程遠い存在だなんてこういう希望の無くなってくるような言葉はあまり使わない方が良いんじゃないかと思います。
【山本委員】
　　程遠い存在、私全部カットしても良いかなと思います。
【岡村委員長】
　　わたしも随分ここのところ引っかかったところです。
【半谷教育長】
　　もう１回練り直しですね。

【岡村委員長】
基本方針は、否定的には持っていかない方が良いんじゃないかと思います。
【半谷教育長】
そうですね。進学中心から目標、目的中心に変えていく。その事によって生きる力を発揮し真の学ぶ意味を考えて学習意欲がより発揮できるような教育を進めていきます。というような内容の文言に変えていくということですね。
【伊澤町長】
はい、ではこの件につきましては次回の会議の前に色々案を考えてもう１回練り直すという事でどうですか。
【半谷教育長】
はい、それでいきます。
【伊澤町長】
その他ございませんか。
【岡村委員長】
５ページ基本施策の４番ですが、一番上勤労観、職業観の育成はいいですけど、就業体験というのは如何なものかなと。就業体験というのは実際に携わる、職場体験を携わるんですよね。そうするとダブった文言じゃないかなと思います。就業というのはあくまでも就業です。籍を置いて長くという事になるのかなと、そんな感じを受けるので。職場体験という事は実際とりつく事もあるし聞く事も体験と思っています。
【半谷教育長】
阿部先生どうですか。就業体験という文言は。
【阿部指導主事】
カットします。
【伊澤町長】
今、岡村委員長から言われたのは就業体験、職場体験というのは同意語だということですね。
【岡村委員長】
そうです、それともう１つ。もっと細かく言ったら就業体験は就業規則に則ったやり方をしなければいけない。だからそこまでやらないで職業体験という事で良いんじゃないかと思います。
【伊澤町長】
就業体験をカットして職場体験学習の充実というのでよろしいですか。
【半谷教育長】
今、文科省は職場体験学習を１日とか２日だけじゃなくってもっと増やせっていう考え方があります。つまり中学生が１日、２日で仕事の厳しさが分かるかということです。１週間位やらせろという考え方で実際行っている学校もあります。
【谷津田委員】
うちも１週間ですよ。
【半谷教育長】
そういう事で充実させて良いと思います。
【岡村委員長】
書き方は就業だから、日にちは同じだと思います。あまり拘束されないと思いますけど。だから職業体験を１週間やろうが１カ月やろうが就業と思って、ちょっとくどいかなと思ったんです。
【半谷教育長】
はい、削除します。
【伊澤町長】
はい、ではこれはカットという事にします。その後気付いた事がありましたら連絡頂いて対応するという事で進めていきたいと思いますが、ここで全部確実にチェックするのは厳しいと思います。
【半谷教育長】
毎年見直しをして部分訂正しても合わないかもしれません。状況はこれだけ変化しています。
【岡村委員長】
いいですか。７ページの下から４行目。伝統芸能や盆踊りを継承できるようにというふうに書いてありますが、それから最後に補助金と書いてあるんですけど、盆踊りも伝統芸能じゃないか

コメントの追加 [KASIX2]: 聞き取り不能
再生時間　0:33:20

と思います。盆踊りなど伝統芸能の継承というふうに文言を書いたら如何ですか。
【半谷教育長】
盆踊りを最初にということですね。
【岡村委員長】
ええ、これで言ったら要するに１つ芸能を出して、伝統芸能を継承するとしてはどうですか。
【半谷教育長】
「など」というのは通常は日本語では２つ以上の文言を並列した後に「など」というのが原則だと思いますので、盆踊りやじゃんがら踊りなどとすれば２つ出てくるかなと思います。
【岡村委員】
２つ入れるか、１つ入れるかその辺のところ分からなかったんだけど、文言を逆にした方がいいかなと思います。要するに伝統芸能を入れたい訳でしょう。それと具体的に何か盆踊りや何とかって言っているんですね。
【井上委員】
そう言えば盆踊りだけじゃないですね。
【伊澤町長】
何とかと入れるとちょっと変ですから、盆踊りとその他という感じですよね。
【半谷教育長】
盆踊りをはじめ他の伝統芸能はいかがですか。
【岡村委員長】
その方が文言良いです。
【半谷教育長】
はい、文言を整理します。
【岡村委員長】
それから、補助金の支援というのはどうなのか。
【半谷教育長】
上演の機会を創出するとともに様々な支援をしていきますにしてはどうですか。
【井上委員】
この下の④はアーカイブ施設の事を指しているんですね。
【半谷教育長】
そうです。実際今後このアーカイブセンターをつくるというアイディアがたぶん進むと思います。
【伊澤町長】
町としても今、アーカイブの施設を国、県と交渉してどうなる結果はまだわからないんですけど、今、それをやっています。今日、午後から上京して要望活動に行ってきます。
【井上委員】
中浜にですか。
【伊澤町長】
基本的に復興祈念公園の有識者検討委員会の中ではアーカイブは必要だと。復興祈念公園だけでは意味が無いでしょう。いわゆる記憶と記録という意味合いからもアーカイブを作るべきだし、その復興祈念公園に隣接させるべきではないかという方向性になってきているんです。期待としては、なるべく双葉にアーカイブをというような委員会の決定になるのかという感じにはなってきています。
【井上委員】
ぜひ進めて下さい。
【岡村委員長】
はい、それでは良いですか。１１ページですが、ちょっとこの文言違う意味を含んでいるんですが、今学校の図書室ですが、元々の図書室と当初から見たらほとんど部数は無いに等しいのではいないかと思うんですけど。
【半谷教育長】
町の図書館程は勿論ないです。
【井上委員】
無いですよね。これから図書をどう拡充していくっていうか、整備していくかという問題をこ

こに今度はかかってくるんじゃないかと思います。今の図書室ではなんか活用するところが非常に狭いので図書室と言えるかどうかなんですよね。

【半谷教育長】

今の生徒の規模からすると図書の数、種類は十分だと思います。図書室に収まりきれない本が廊下に、何ヶ所かに置いている状況です。数と種類は十分だと思います。

【岡村委員長】

その事が頭の中に無かったものだから、図書室は最初に行った頃は、職員室の隣に少しあっただけだからね。

【半谷教育長】

今は相当数あります。

【岡村委員長】

要するに今後こういった事も含めるとするならば、図書室らしきものを充実していかなくてはいけないという事は目に見えてくると思うんです。今後のこれを課題とするならば、また、そういう意味が出てくるかなと。教育委員会としては重点項目の１つにしていかなければいけないのかなと考えます。

【半谷教育長】

活用をメインに考えて良いと思いますけど、相当充実はしています。事務機器の企業から、１校１０万円ずつ合せて３０万円の支援をいただき本を揃えました。活用ですね。

【井上委員】

そうすると常勤の司書が欲しくなりますね。

【半谷教育長】

来年度、司書の配置については考えていきたいなと思います。

【井上委員】

そして図書館教育、そこで１クラスが授業出来る位のスペースね。司書がいてそれが理想ですよね。

【半谷教育長】

理想ですからそれに見合う児童生徒数を増やして司書の配置というふうに考えていこうかなと思います。まずは児童生徒数を増やす事からです。

【岡村委員長】

２０ページですが、この中で「いつでもどこでもだれもが」という言葉が何ヶ所か載せてある訳ですが、「どこでも」という言葉がはたしてどの程度使っているか、双葉町民がどこでもできているかと、どこでも受けられるんだろうかと、じゃあ我々どこでやっても良いんだと、逆に町民から聞かれた時にどう答えていったら良いのかなと思います。

【半谷教育長】

この「どこでも」という意味は福島だろうが東京だろうが、あるいは、東京の人で言えば電車の中であろうが図書室に行こうが家の中であろうが何処でも学びたいと思う環境というふうに考えました。つまりその人が本当に毎日どんな場所に居ようとも、勉強しようと思う気持ちが必要だろうかなと。本の好きな人って本当に電車の中でもトイレでも読んだりしています。

【岡村委員長】

そうすると、ここのこの文は逆に要らないのかなと思う。極端だけどね。町としてのその重点施策として載せるのであれば、どこか勉強できる裏付けとして必要ではないかなと思います。

【半谷教育長】

具体的に何かこれに代わる言葉がありますか。

【岡村委員長】

逆に私は削除した方が良いのかなと思ったんです。「いつでもだれもが」学びたいと思うというようにしてはどうですか。

【半谷教育長】

「どこでも」という文言をカットするという事ですね。

【岡村委員長】

そうです。

【半谷教育長】

いつでもっていうのは、「どこでも」という意味も含まれるんですよね。場所にはこだわらな

い。他のご意見ありますか。「いつでもだれでもが」とても良いように思えます。

【伊澤町長】

「避難地域の文化団体の交流支援」という表現はおかしくないですか。「避難先自治体の」だったら分かりますけれど。

【半谷教育長】

はいそうですね、避難先自治体の文化団体との交流支援、それで良いと思います。

【伊澤町長】

今チェックしきれなくて、後で気付いたものは連絡頂いて対応するという事で良いでしょうか。それでは、この双葉町教育振興基本計画（案）につきましては、今ほど申し上げましたようにそれぞれまだチェックしきれていない所がありますので、お気付きの点がありましたら後ご連絡頂ければ対応するという事でよろしいでしょうか。

それでは（１）につきましては以上とさせて頂きます。２番目の双葉町の教育についてでありますが、意見交換という事で特に案件は無いという事ですのでフリートーキングで進めます。

（２）双葉町の教育について（意見交換）

【半谷教育長】

私の方からお話ししたいと思います。この間、何人かの方にこれからの学校教育をどう進めていくかということを問われました。今日も聞かれたんですけれど、中身はちょっと違うんですが、町の復興が具体的にいついつまでという明示されていない中で、教育長としてどうするのか。あるいは、いわきの子供が今２人程入っています。

こういう状況の中で、一体双葉の教育をどう進めていくか。こんな質問でした。私はこんなふうに答えました。いつ戻ろうとも当分はいわき市の今いる錦町で学校教育を進めていくことは間違いないので、そこまでは学校教育を充実させてどこの町の子供であろうと、郡内の教育委員会の教育長とお互いにこういう状況なので子供を受け入れようという了解が得られているので、新しいその土地で新しい双葉の教育を他町村の子供を巻き込みながら作っていくという考えであると。ひたすらとりあえず存続、休校の心配がいらない数として５０名を目標に、それに早い時期に近づくように色んな取り組みをしたいと思います。

新年度は特に、英語教育を充実させて、今年同様に授業公開をしながら、小中学校での英語教育を充実させて子供を増やしていきたい、そんなふうに答えました。ご意見を頂きたいと思います。以上です。

【伊澤町長】

教育は非常に難しいですけど、今言われたような感じでうちの学校の体制というのをやっていくべきなのかなと考えております。当然我々も避難して避難先自治体にお世話になって、いわき市さんの協力、そして錦星幼稚園のご協力で学校を立ち上げる事ができました。

そういった意味では双葉は双葉町独自の教育のスタイルがあってもいいのかなと思います。今特に評価がされているのが少人数の教育で、やはり他の学校との差別化というか、非常に特殊な教育のスタイルになってきている感じを受けます。それが良い悪いって言うよりも独自性を発揮することによって、この小規模校の存在が目立ってくるのかなと思います。

そういった事で逆にうちの学校に興味を持ってもらう、双葉町の子供さんはもちろんの事、他に避難している自治体の子供さん、地元いわきの子供さんたちも学校に見学にきてもらう事は、すごくアドバンテージになると思います。というのは、うちの学校は非常に評価される、建物もそうですし、教育内容を見て、入りたくなる方が多いと聞いております。そういう意味では、今行っている取り組みというのは非常に評価されてきていると思います。結果として１１名から始まった児童生徒が今２４名ですし、来年度には３０名を超すような形になってきています。

１年、２年目、３年目になったらもっとそういうふうな成果が表れてくるのかなという事と、後は、協力していただいているＡＬＴの２人が本当に双葉町に対して、非常に町民以上に愛着を持っているという事で、先般、ＮＨＫの特番に出ていました。我々も協力できるものは協力して英語教育というものを充実させることは本来の姿で構想としてありました。そういう事の取り組みで進めていけたら良いのかなという感じでおります。そういう点では教育委員会の皆さんと教育長が色々な会議をされて構想・方向性を示して頂いていることは十分町としても感謝しており

ます。

【岡村委員長】

先程、放射能の教育、放射能訓練、安全教室の問題が出ましたけども、私も放射能の専門家ではありませんから、あくまでも素人的な意見かもしれませんが、今双葉町の放射能の状況を見て、双葉町に帰れる、来年除染するから帰れるんじゃないか、再来年は大丈夫じゃないかという、あくまでも物理的な話であって、人間的な観点から、帰町には時間がかかると思います。今後の双葉町の状況によって、復興も相当時間をかけないとできないのではないかと思います。そうすると今の子供たちが卒業していく位頃まで帰れないのではと思います。

例えば、双葉町の学校、町長が言われた通り特色のある学校と言っても、少人数だからその特色とかそう言った事が重点的にやれる教育環境でないかという事で、教育長から英語の話題が出ましたが、全くその通りで、今子どももかなり社会から求められる人材というのは英語が必修科目みたいになっている訳です。

おそらく１０年後にはもっとだろうと思っていますので、私は今の学校は、ここで外から何を言われようが真剣になって活動していく、しかし、そこで大変なのは先生方にこの学校を、さすが双葉町の学校という学校にしてもらう為の御苦労は大変なものだと思います。やはりその位の覚悟で私はやるべきじゃないかと思います。仕事ができないうちは帰れないでしょう。産業が成り立つ位のところまでいかないと帰れないと思います。

【伊澤町長】

こちらにいる間、その教育の特化というか特殊性をどんどん打ち出して進めるべきです。今のやり方で良いんじゃないかという事でよろしいですか。

【岡村委員長】

そう私は考えます。皆さんはどうか分かりませんが。

【大久保委員】

学校の進め方については、英語に力を入れてやっていて、周りの学校から見ても特化して特色がよくでていて本当に魅力的な学校に仕上がってきているんじゃないかなと思います。結局、親がどういう学校なんだろうと興味を持って見た時に、ああ、こういうやり方をしてこういうところが特化している。ここでうちの子供を学ばせてあげたいと。

過去に小学校のＰＴＡ会長の時に、双葉中学校を見学しましたが素晴らしい学校でした。県立の素晴らしい学校も見学させてもらったりもしました。何か特化してきちんとやって、ニーズに合うようなことをやっていけば人は自ずと集まってくると思います。だから今のやり方を進めていけば人は確保できるのかなという感じがします。今の進め方で素晴らしいと感じます。

【井上委員】

現在の形が幼小中一貫校のような形だと思います。そして、中身もこうして出来上がった。だからもう中身は良いんだと思います。これから先２０年、３０年後必ず双葉町に帰るんだとなった場合に、小中一貫校として何処に学校を持っていくのか、そして駅はどうだ図書館はどうだグラウンドはどうかというような事の考え方も、町長さんを交えてじっくりと話し合う機会を私は持って欲しいと思います。

それから中学校ですが、現状ではちょっと狭すぎるんで、今すぐではないですが、中学校だけでももっと広い校庭が使えるような所にあったらいいなと思います。以上です。

【伊澤町長】

はい、ありがとうございます。谷津田委員どうでしょうか。

【谷津田委員】

先程から言われているように、かなり特色があります。私教育委員ですよと話をすると、双葉町に帰らないのか。という意見がありますが、今お話があったように当分帰れない訳ですよね。今の充実した環境は、見学した保護者はここに子供を入れて教育したいなと、そういう雰囲気だなと思うんです。

前にも話をしたかと思うんですけど、ちょっと過保護になって求められる人から外れるような教育が心配です。もちろん誰もそういうつもりで教育していないでしょうけど。あまり過保護な事は子どもにも良くないんじゃないかなという感じで、今を継続していけば良いかと思います。井上さんも言ったようにちょっと手狭になってくるんじゃないかなと思います。例えば楢葉町が来年帰町しますから、工業高校とか明星大学とかもあって、あの辺ではどうかと勝手に思ったりしています。ここはいずれ幼稚園と小学校くらいですよね。学校はもっと子供たちが伸び伸びし

た所で勉強、運動が出来ればいいと思います。私の個人的な意見ですけど、以上です。

【伊澤町長】

山本委員どうぞ。

【山本委員】

先日、ふるさと創造学がありましたね。先程、双葉中学校のカレンダーを見せていただきました。自分たちができることを着実にやっていると感じました。また、少人数ということで、心配される声も聞きますが、今子どもたちは、伸び伸びと学校生活を送っているので、先のことも大切ですが「今」を大切にしてほしいと思います。

学校は町の歴史や伝統を学ぶために、教育総務課や夢ふたば人の方による出前授業を行っているようです。今後も継続していただきたいと思います。以上です。

【伊澤町長】

はい、ありがとうございます。

教育、学校の方に関しては、大体肯定的な感覚のようです。あと１つ少し過保護と言う事が出てきましたけど、何でも与えるばかりじゃなくて自分達もちょっと苦労する事も必要なのかなと思っていました。そういった事も踏まえて、今後取り組みをして頂ければと思います。

昨日このカレンダーを持ってインタビューする事で、中学２年生の子どもたちが来ました。その時に非常に私自身もほっとさせられたのは可愛いんですよね。顔が、あの震災当初の何かやる気の無い脱力感というか倦怠感と言うか、やっぱり輝いているんですよ。だからその部分では非常に今の学校は良い形になってきていると感じました。それぞれ一生懸命取り組む姿は見受けられますし、そういう点では決して間違った方向には行ってないなと感じました。

ただ、今、谷津田委員から指摘があった部分もちょっと引っかかるところが私も少しあって、甘やかす事では無いんでしょうけども、純粋培養というか、少数精鋭じゃないですけれど少ない子どもたちだから、本当に丁寧に丁寧に大切に育てる気持ちはわかるんですけど、ただ過度になってしまうとそこの部分で、今度、違った場所に行った時に対応出来なくなってしまう人間が出来はしないかというのが少し心配ですよね。例えば、中学校までは良いけど、高校に行ったらガラッと変わった環境になると思います。だから、そういう時にも対応できるものも含めた今後の取り組みをして頂ければと私も感じてはいました。そういった意味で谷津田さんの言った部分が私も絡んでくるんだろうなという感じは受けました。

【半谷教育長】

その過保護については時々聞かれます。今年４月に誕生したふたば未来学園高校ですが、ここには日本の超一流の芸大の学長とか、平田オリザさんとか、松岡修造さんもこの前来たんです。校歌をつくった箭内道彦さんとか、そうそうたるメンバーが来て授業を行っています。他の町村からもうちにも回してくれないかとの話しもありました。今、双葉が置かれている状況を考えたらこの位やらないと未来学園高校も小中学校も今立ち上がって、未来学園高校は定員を予想以上に上回る生徒が来たんですね。だけど１年目で終わるわけにはいきません。

うちの小中学校について言えば、他の学校よりも教職員定数で４、５名多くもらっています。それから予算措置も有ります。私、この学校立ち上げる時に生徒を増やす為には環境が何より大切だと思いました。文科省から補助金を貰って校舎を造って、ＩＣＴ、それからトイレも充実させてエアコンも整備して、机も椅子も全部特注しました。これでないと生徒は集まりません。

確かに過保護と言えば過保護です。でも、それに見合うだけの教育を私はすれば良いだろうと思うし、そういうことではある意味経験、苦しい経験を経て、さっき表情が豊かになってきたと言いましたけどその通りです。本当に今ようやくここでやろうという態勢ができつつあるので、私は、全国からの義援金も断らずに頂いております。そのかわり丁寧に自筆でお礼の手紙を出す事でどんどん子供の為にもっと充実させて生徒を増やしたい。過保護は今の状況を考えたらこれはある意味やむを得ないと思います。だから、学ぶ事の厳しさをその代わり追求する事で、恵まれている分だけ頑張っていきたいなと思っています。以上です。

【井上委員】

結局社会性が身につきにくいっていう事なんですか。

【半谷教育長】

それはどういう事ですか。

【伊澤町長】

過保護は駄目って意味に捉えられたようですが、訂正しますが、決して過保護が悪いって言っ

コメントの追加 [KASIX3]: 聞き取り不能
再生時間　1:16:35

ているのではないです。心配なのは、次のステップへ登った時に対応できなくなってしまう危険性はないですかと、少し手厚くやることは良い事だと思います。それだけ大変な思いをしている人達だからそれに見合うだけのものをするというは必要だと思います。一方では、例えば、あの状態に入ったまま冷水に置かれる環境になる可能性も出てくるだろうと思います。

【半谷教育長】

何で冷水を浴びせるかですよね。

【伊澤町長】

そこの部分がうまく折り合い付けば別段やっている事が悪いと言っている訳ではなくて、子供たちが違う環境に移った時にパニックを起こさなければ良いと思います。

【半谷教育長】

もう１つ考えて欲しいのは、教育はいかにお金をつぎ込むかです。つまり、都会の人は田舎の人と比べて圧倒的に違うのは、私立中高一貫校に勉強する人たちですね。３時、４時で自分の学校が終わってから８時、９時まで超一流の家庭教師をつけて、塾に行って１教科それこそ１万、２万円の授業料、月に５万円もかけて塾に行って、そして、難関高校、大学にと進む教育をやっています。それに見合うだけの人材、追いつくだけの教育熱と将来出て対等に戦える人材を育成するとなればやっぱりお金はもっともっとつぎ込むべきで、問題はそこで我々がつぎ込んだ教育の中身で子供たちをいかに考えて、英語を身につけて社会性も同時に他の学校との交流とかを色々足りない部分を補ってやるべきで、私は過保護の側面というものを一面だけでは捉えるべきではないと思います。その位田舎の子供たちは、あの教育環境にはまだまだ追いつきません。

【山本委員】

田中角栄さんは、国は教育に金を惜しむなと言っていました。今ちょっとお金の話が出たのでなるほどだなと思いました。

【半谷教育長】

双葉の教育は、本当に文教の町その通りです。私、１０年いましたので分かりますが、いかに双葉の子供が他の学校に比べて優秀で能力も高めていました。それは、双葉の教育予算が圧倒的に他町村よりも恵まれていたことも大きな理由だと思います。

双葉町ほど教育予算が多いところはありません。色んなところから何が過保護で何が過保護でないかを私なりに考えていきたいと思います。

【岡村委員長】

その過保護という話は２つ要因があって、学校と家庭内でも過保護な教育、育て方をしていることで、これは両方一緒に戻すという事は大変な苦労だと思います。そういうのが当たり前だと思っている今子供たちが育ってきているんです。私は、一般的に言われている過保護の欠点は何かと言うと傷めつけられた時に弱いと思います。だから、私はこの双葉の学校で実力を付けてあげて、子供たちが自信を持って次のステップへ行った時に、自分に自信を持っている事があれば過保護でも立ち上がって行けるのではないかなと思っています。

双葉の学校をレベルアップして、子供たちを良い方向に育ててあげるという事が、今の社会の中、過保護の中から育てていく一番の施策かなと感じています。

【山本委員】

大事にされたその分私たちは応えなくてはいけないとか、何か頑張ろうという意識になると思います。大人がそういう目線で見ちゃうとそういうふうに見ちゃいますよね。

【半谷教育長】

いわきの子どもばかり何であんなに分厚くやるんだろうという話が出てきています。そういう意味では恵まれています。来年は英語教育を充実させて生徒をもっと増やしていき、もっと過保護にします。つまり、お金をつぎ込んで環境を充実させる事以外には生徒を増やす術は私の頭にはありません。だから、スポーツも芸術も田舎からそういう一流の環境に浸ると思うとお金はかかります。

今、地方の学校で何をやっているかと言うと、一流のシェフを呼んで一流のディナーを経験させて、一流の芸術家を呼んであるいはこちらから東京に行って、スポーツでも芸術でもやっていますね。震災の被災者という特殊な状況にありますけど、もっともっとレベルの高い教育を私は目指したいと思います。色々、可能な限りやります。

【山本委員】

避難先の子供たちの事に関してはどうでしょう。

【伊澤町長】
いつも町政懇談会で出るのが、いわきばっかりと言われるんです。でも、基本的な考え方は、それぞれの避難先についても、公平公正にやることが行政の基本的な考え方だと思います。何処まで、どういうふうにとなると、例えば、今、教育長が言ったように教育の部分では、各自治体にお願いしています。そうするとその避難先自治体の教育のスタイルは決まっています。だから、集約という方向に双葉町民の皆さんの意識が向いてくれないと町の存続が出来ないんではないかと思います。このままどんどんばらばらになっていったら、人口が減って将来町に戻りますと言った時に、誰もいなかったという事になり兼ねないです。
教育だけじゃなくて、全てのものに関して町として形成していなかったら教育は出来ないです。大元の部分をきちっとしないと、今言ったような教育だって継続は出来なくなってしまいます。その部分が非常に行政として悩ましいことです。教育の大切さは、教育が出来なかったら町の存続は出来ないです。教育を授ける事が出来ない町というのは存続出来ないです。
だから、そこは成果として上がってきているのは、先程挨拶の中で申し上げた通り結果は出ています。そこを今度はどういうふうに浸透させていくかという事だと思います。そこの部分で、教育長のアイディアにお願いしている状況ですから、町としては、応援出来るものは応援しますというスタンスでいます。ただ、ここでずっと終わりではないという事です。教育は継続し、その先の事も見据えた教育をして頂くことは、今後検討して頂きたいと思っています。
【岡村委員長】
１００パーセントという訳にはいかないと思います。先程言った中でもう１つ付け加えるならば、いざ戻る時、双葉の学校は素晴らしいから戻れる、というような流れを作りたいなと思っています。
前にも教育長に何回か申し上げていますが、外国に行って散歩をしていると、日本人の子供がそこで英語を喋っているんです。それは環境がそうしているからだろうと思うんです。今の双葉の子供もＡＬＴの先生が２人います。非常に充実しているだろうと思うんです。それをもっと充実させてくれという意味で、耳からと目からとで勉強させる事にしたいと考えています。分かる授業というのは、そういう事をするのが分かる授業じゃないかと思います。ただ耳を通しているだけではなかなか理解不足で、肌で感じる、目で感じるというそういった教育が必要だと考えます。双葉に帰った時に、そんな学校をひとつ目指したいと思います。
【伊澤町長】
そうですね。
【谷津田委員】
英語教育ですけども、うちの会社ですが海外の企業と合弁会社を作っています。今入ってくる学生は、英語が喋れるんです。読み書きじゃなくて喋れるんです。そういう子たちを中心に、合弁したところに行かせるんです。私等は、学校卒業した後は勉強はもう良いかなと全然勉強しなかったですけど、もう今でも会議の時に英語で喋っているんです。英語でのやり取り、私は全然分かりません。だから、やっぱり英語教育に特化するというか、小学生の時からという話がありましたけれど、もう徹底的に英語だけはやった方が良いんじゃないかなと思います。何歳になっても多分英語は使うと思います。
【井上委員】
上海に行った時、幼稚園から英語を学習していました。素晴らしいです。帰ってきて孫をすぐに英語教室入れました。結果が出ましたね。だから幼稚園からですよ。小学校からでは遅い。幼稚園があるのだから今出来ますよ。幼稚園にもＡＬＴたちに行ってもらってはどうでしょうか。
【半谷教育長】
今も行っています。
【井上委員】
今も行っているんですね。じゃあ素晴らしい。双葉の子供たちは幸せです。いい結果が出ると思います。
【半谷教育長】
１年やると１年後には英語の教師が英語喋って英語で答えが返ってくるようになるんです。ＡＬＴをうまく活用する日本人の教師の力量とアイディアが大切ですね。来年誰が英語の先生になるか分からないですけど、私もできるだけ現場に行くと言っています。
今年の双葉郡学校教育サミットで、広野小学校の子どもたちが皆英語でプレゼンテーションを

やりました。これには、びっくりしました。２５分間で７、８人居ましたか。目の前にその子どもたちが読んだ英文と日本語の訳があって相当練習しましたね。しかも発音が綺麗なんです。先を越されたなという状況です。

英語だけかというと、英語を１つきっかけにして、他にも頭が活性化しますので頭が柔らかいうちにそれこそ幼稚園のうちからやっていきたいなと思います。１年間やってどんな変化がでるか少し不安もありますけど楽しみにして頂きたいと思います。

【岡村委員長】

前に私が行ったヨーロッパで、今日の会議は英語でしますか、ドイツ語でしますかって言われまして。日本語が入っていなかった。日本語でとは言えませんでした。それからもう１つ、今、企業はもう英語を取り入れ、日本の企業も英会話の出来る人を採用している訳ですね。そうするとこれからは、企業に出て行くとなるともうそういう事は必修条件になってくるような感じがします。

【伊澤町長】

そういった意味では、２名のＡＬＴは来年こちらでずっと常駐してもらえることになるんですよね。

【半谷教育長】

最終確定ではないですが、課内でもそういう方針を固めて２人のＡＬＴをいわきに常駐させる事で充実させようと考えています。町長さんにお話して、加須市は心配ですけど、今置かれている状況をお話して進めていこうと考え、昨日、加須市の教育長とお会いしてお願いしました。双葉の為にはいつでも２人を戻すという考えがあるとのことでした。加須市の小中学校の校長と教育委員会の部長、課長にも方針を伝え何かあった時にはすぐご相談しますという言葉を頂いて来ました。

コメントの追加 [KASIX4]: 聞き取り不能
再生時間　1:38:21

【井上委員】

良かったですね。

（３）その他

【伊澤町長】

その他に移ってよろしいでしょうか。何か事務局のほうでありますか。

【今泉教育総務課長】

特にございません。

【伊澤町長】

じゃあ皆さんのほうではその他ないですか。

【山本委員】

その他で１点気付いたんですけども、今日の新聞にさっきのカレンダーの記事ありましたよね。１人双中の制服でない人がいましたね。あれは自分で私はここの制服がいいっていうことで着ているの。双中の制服を着せてやるっていうわけにいかないんですか。

【半谷教育長】

他にも転校してきた子どもがいます。これから途中でどんどん入って来ますので検討します。

【岡村委員長】

拒否しているんですか。

【半谷教育長】

いえ、違います。こちらで認めています。学校の先生方の意見も聞いて、いいだろうと判断しました。

【山本委員】

経済的にもちょっと負担になりそうですか。

【半谷教育長】

制服自体揃えると数万円かかるので、負担になること思います。

【岡村委員長】

新年度あたりから揃えるという考え方できないですか。

【半谷教育長】

今先生方の考えも聞いて、ちょっと検討させてください。

【山本委員】
　　はい、わかりました。

４．その他

【伊澤町長】
　　それでは、その他ございませんか。ないようですので、平成２７年度第２回双葉町総合教育会議を終了させていただきたいと思います。どうもお疲れ様でした。
【半谷教育長】
　　どうもありがとうございました。

５．閉　会

【今泉教育総務課長】
　　ありがとうございました。この基本計画につきまして、ご意見等がありましたら大変お忙しいところですが、年内にご連絡いただければ、修正を加えたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。
　　以上をもちまして、平成２７年度第２回双葉町総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。
【出席者全員】
　　お疲れ様でした。

以上